

Design Management project

県デザイン経営塾10「コミュニケーション戦略〈見せる化〉から〈魅せる化〉へ」

富山県・富山大学芸術文化学部 連携事業

富山大学芸術文化学部准教授 矢口 忠憲



開催主旨と概要

県デザイン経営塾は、現代の生活者が共感する魅力と独自性のある「地域活性化戦略の方向性」を探索し、経営者の「デザインマネジメント」に対する理解向上と習得を主な目的として、平成18年度から富山県と富山大学芸術文化学部が連携し、毎年開催しているものである。

富山県は製造企業が多く、近年産業観光でも全国的に注目を集めているところである。現在各事業所では品質管理の強化や管理コスト及びCO2排出量などの環境負荷削減を目指しているが、これからは「無駄の排除」と同時に高付加価値の製品開発に代表される「魅力の創出」が求められる。このような背景から今回は、県内の様々な事業所の方々を対象として、デザインの手法でそれぞれの職場を改善することにより、やる気アップと競争力強化を図る〈魅せる化〉をテーマに開催した。

組織構成

主催：富山県商工労働部商工企画課

富山大学芸術文化学部

プロデューサー：武山良三（富山大学芸術文化学部）

実行委員長：矢口忠憲（富山大学芸術文化学部）

実行委員：有田行男（富山大学芸術文化学部）

森友昭（富山県商工労働部商工企画課）

高山枝里子（富山県商工労働部商工企画課）

プログラムとスケジュール

設定したテーマに基づき、次の具体的目標項目を定め、県内の各事業所に募集を募った。

・企業ブランド（自社の特徴）を、『内（従業員）』に浸透させ、「デザインマインド」の向上を図る「安全確保・品質管理・環境改善」として考える。

・企業ブランド（自社の特徴・魅力）を、『外（隣接地域住民／ビジネスパートナー／見学者／リクルートなど）』に向かって共感と理解を求めて発信する「〇〇戦略」として考える。

テーマである魅せる化に向け、現状の問題点解決に役立つであろう切り口を想定し、各回の講師陣の選定にあたりると同時に、塾開催に先立ち参考となりうる県内事業所を何カ所か訪問しリサーチさせてもらった。また、各回の開催場所は、異業種の現場における様々な状況を少

しも共有してもらおうとその都度会場を変え、プログラムの中に工場見学を組み込んだ。

■第1回 デザイン経営塾

日時：2015年10月9日（金） 13：30～16：30

場所：富山大学 高岡キャンパス 大会議室

◆セミナー1『製造業に求められるデザイン戦略』

本プロジェクトのプロデューサーでもある武山良三氏より、自身の専門の一つでもあるサインデザインを例にあげ、自社の特徴（何を創って、誰・何処に提供しているのか、他社との違い）を内外に示すことそのものがサインである、デザインマネジメントが「見せる化から魅せる化へ」に不可欠である旨の提言があった。

◆セミナー2『サインデザイン事例／

プロジェクトに学ぶデザイン』

廣村デザイン事務所の代表である廣村正彰氏を講師に迎え、参考となるプロジェクトを紹介いただきました。1つ目は「庖丁工房タダフサ」の商品開発で、和包丁の弱点をユーザーにとっての魅力へと変えた試みで、《相手に何をとどけるか》を真剣に考えて生まれた事例であった。2つ目は、「エアラス」の紙の開発で、商品を単なる高級印刷用紙としてだけではなく、企業とモノ・企業と使う人を繋げるモノと捉え、《伝わるデザイン》を心がけることによって成功した事例であった。

■第2回 デザイン経営塾

日時：2015年10月24日（土） 13：30～16：30

場所：富山県産業高度化センター 会議室

◆工場見学 株式会社 能作

能作克治社長直々に施設の案内と、会社の理念《守る伝統から攻める伝統へ》について、また新しい本社社屋建設プランを語っていただいた。

◆セミナー『儲けとツキを呼ぶ

「ゴミゼロ化」工場の秘密』

枚岡合金工具の代表取締役会長の古芝保治氏を講師に迎え、自ら先頭に立って行った自社の大改革のお話を聞かせてもらった。成功の秘訣としては《経営者の熱意》パッション・ミッション・ビジョンを明確にすること、生き残りをかけた徹底した《3S：整理・整頓・清掃》活動であるとのことであった。



◆ワークショップ〈現状把握／問題点抽出と対応策〉

■第3回 デザイン経営塾

日時：2015年11月20日（金） 13：30～16：30
場所：朝日印刷 富山工場 会議室

◆工場見学 朝日印刷 株式会社 富山工場

命に関わる仕事でもあるので、絶対に間違いが起こらない表記、自然災害時にも安定して供給できるような体制確保などが重要であると考えているとのことであった。

◆セミナー『デザインマネジメントが対象となるもの』

CREP4代表理事、本学部の客員教授でもある松原博氏を講師に迎え、前職でのマネジメントの経験談を交えて講演いただきました。ブランドの力とは、《ブランドを通じた企業と顧客の関係》を創り出すことであり、ブランドの確立には「モノ・コト」の見極め《5つのみる：見・観・視・診・看》が重要になってくるとのことであった。

◆県内企業事例紹介（塾生事業所含む）

YKKセンターパーク／北陸コカ・コーラボトリング／創造の森越中座／三芝硝材／魚津おさかなランド／SUKENO／日の出屋製菓ささら屋／大高建設／中越レース

◆ワークショップ〈自社の特徴・他社との違い発見〉

■第4回 デザイン経営塾

日時：2015年12月18日（金） 13：30～16：30
場所：ゴールドウィン 会議室

◆工場見学 株式会社 ゴールドウィン

最新の機械による裁断から縫製により、トップアスリートから一般のユーザーまでの様々な要求に応じていることがよく解りました。また、工場内各フロアー入口に創業当時の製品を陳列することにより、社員のブランドイメージ浸透を図る工夫もされていた。

◆セミナー『医療現場における働きやすくする情報改善』

島津環境グラフィックス代表の島津勝弘氏を講師に迎え、医療現場など公共施設の事例を紹介いただいた。最大の問題はモノと情報の反乱で、まずはそれらの整理整頓《張り紙をやめる》から始めること。医療現場ではICT情報を見ることができないスタッフもいることから、皆が予知行動ができるよう《ICTとアナログとの共存》

を目指した工夫をするとのことであった。

・ワークショップ〈自社の魅せるコンテンツの確立〉

■第5回 デザイン経営塾

日時：2016年1月22日（金） 13：30～16：30
場所：源ますのすしミュージアム 会議室

◆工場見学 株式会社 源 本社工場

ガラス越しに全製造工程を見ることができるとある見学コースに加え、製造体験ができる施設や、旅と食の文化史に関するコレクションコーナーなども隣接され、来場者へのおもてなし精神を感じることができた。

◆セミナー『建築とサインデザイン、そして色彩

～なぜ空間に色をしつらえるのか～』

(有)エモーショナル・スペース・デザイン代表ディレクターの渡邊太郎氏を講師に迎え、オラクル社における事例で、従来の単純なサイン計画とは異なる《空間構成の可視化を「色」で行う試み》をお話いただいた。職場で働く社員はもとより、来客の方々にも「色」によって識別された空間で、より効率よく、豊かでアクティブに仕事を展開できることを狙った事例であった。

◆成果発表〈各塾生の事業所における提案〉

各回におけるセミナーや工場見学などを参考に、毎回のワークショップの成果をまとめ、発表してもらった。

《工場内の作業行程、内容に関する掲示板の改善》

⇒各部署の担当者にヒアリングし、掲示する情報を最小限に減らすと同時にデザインも解り易く一新。

《これからの新しい産業観光を目指す》

⇒多種多様な見学者に理解してもらえる説明を目指して工夫を重ねることで、案内する者の意識を高める。

《地域の財産である大自然の恩恵を生かす》

⇒観光資源の活用だけではなく、電源開発の町として再生可能エネルギーの活用を積極的に押し進めていく。

《産地観光を通して従業員の意識向上を図る》

⇒製造商品や生産現場の見学だけではなく、その土地のものづくりの歴史的・文化的背景までを伝える。

《新しいアイデアを取り入れた商品開発の強化》

⇒グローバルな商品開発を目指し、既成概念に捕われない若い世代のアイデアを積極的に取り入れる。